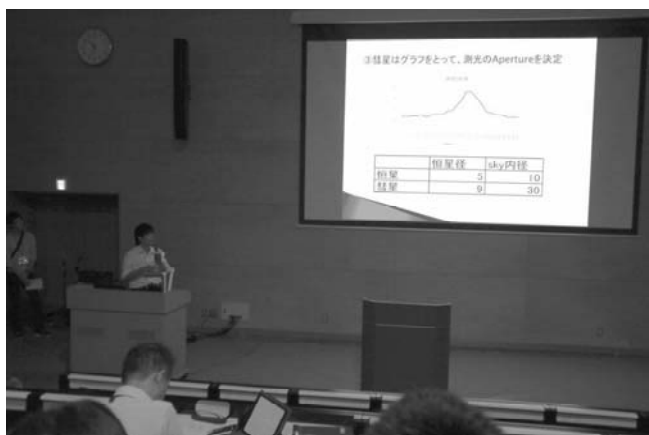


3. 2 地学部

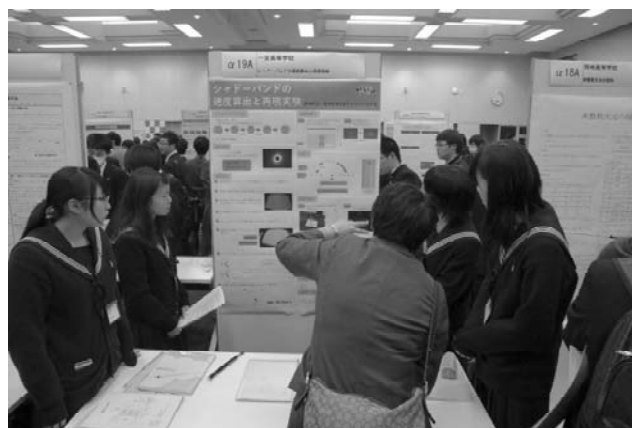
本年度は、34名の部員でSSH本体枠での活動に加え、他校との連携による活動を継続実施した。また、引き続き多くの研究発表会等に参加した。

(1) 学会・科学コンテスト・研究会での発表

- ア 地球惑星科学連合2017大会高校生によるポスター発表（幕張メッセ）
- イ 天文高校生集まれ！（大阪教育大学）口頭・ポスター発表
- ウ 東海地区SSHフェスタ2017（名城大学）口頭・ポスター発表
- エ 課題研究交流会（名古屋大学）
- オ AITサイエンス大賞（愛知工業大学）口頭・ポスター発表
ものづくり部門 奨励賞 「SQMフードの改良」
- カ 日本学生科学賞 応募
- キ 理科研究発表会（東海学院大学）口頭発表
- ク 夜空の明るさに関する課題研究発表会（一宮駅前ビル）
- ケ 科学三昧 in あいち2017（岡崎）ポスター発表
- コ 高文連自然科学部研究発表会（名古屋市科学館）口頭発表
- サ 「高高度発光現象の同時観測」に関する研究会（神戸高校 高知小津高校との連携）
- シ 日本天文学会ジュニアセッション（千葉大学）ポスター発表



口頭発表(大阪教育大学)



ポスター発表(岡崎コンファレンスセンター)

(2) 観測・活動

ジョンソン彗星の測光、皆既月食等、旬な天体現象について観測・研究した。また、顧問がデータ提供した皆既日食から重力レンズ効果、シャドーバンドについても研究をしている。また、久々に高知小津高校主催である高高度発光現象の研究会にも参加し、共同研究に取り組んだ。ものづくりでは、観測機器に着脱でき観測精度を上げるフードを改良設計し、製作した。

(3) 成果と反省・課題

旋盤加工した治具を活用することにより高精度なフード製作が可能になり、まずまずの評価が得られた。ただ、初期段階ではドリル等、工具の扱いに不慣れな生徒が多く、指導には苦労した。

高高度発光現象は、回折格子を利用して分光データを取っているが、対象が暗くノイズとの戦いとなっている。独自テーマの難しさに直面している状態である。明るい流星はデータが得られているので、共同研究の内容に加えて、流星群別の特徴を1年かけて考えさせてみたい。

今後とも多くの発表の機会を通じて、協調性・コミュニケーション力といった生徒の総合人間力を高める努力を続けたい。